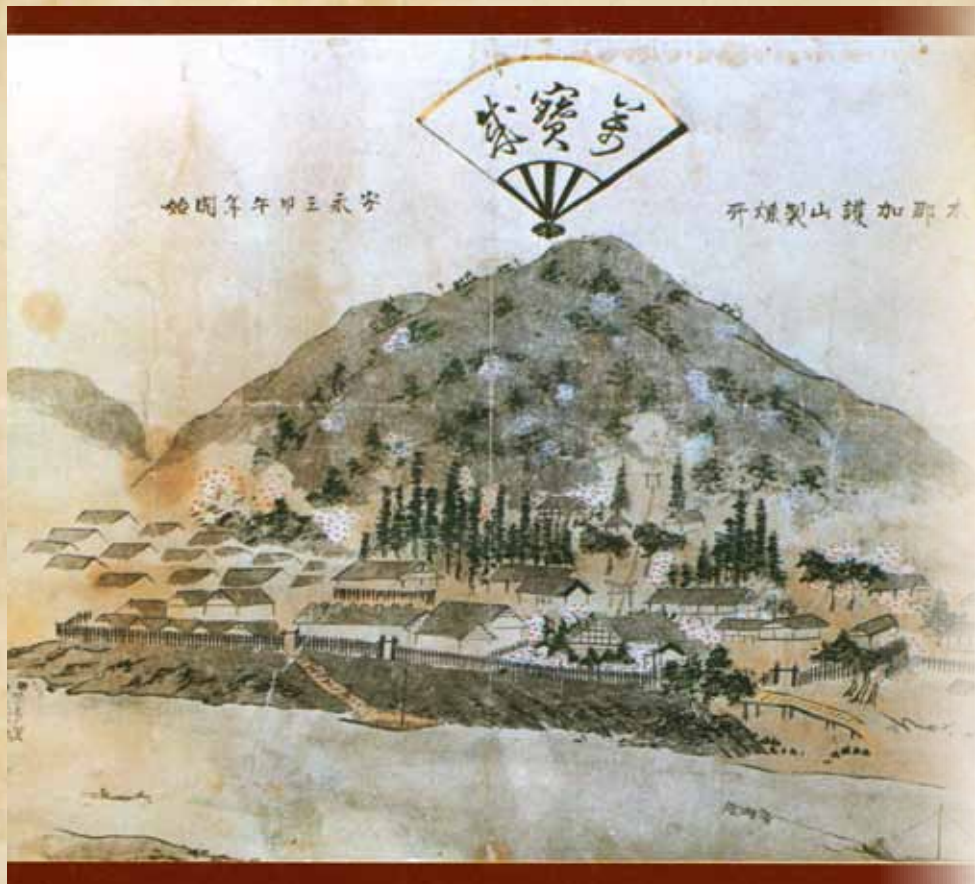


平成二十四年度第三回 鉱業博物館特別展

# 秋田古銭物語

阿仁の鉱山が生んだ貨幣



加護山製煉所絵図(資料提供:能代市教育委員会)



秋田銀判(九匁二分)



秋田鐔銭



秋田波銭



秋田銅山至宝

平成24年**9月2日**①▶**10月31日**②

会場：秋田大学 大学院 工学資源学研究科 附属 鉱業博物館 特別展示室

## 秋田大学大学院工学資源学研究科 附属 鉱業博物館

〒010-8502 秋田市手形字大沢28番地の2 TEL 018-889-2461 FAX 018-889-2465  
URL <http://kuroko.mus.akita-u.ac.jp/>



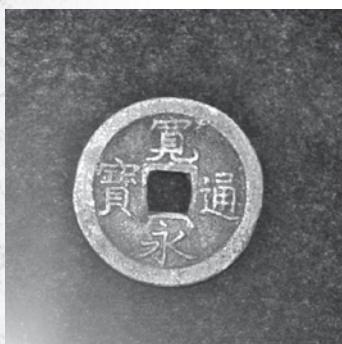
# 特別展「秋田古銭物語」

～阿仁の<sup>ヤマ</sup>鉱山が生んだ貨幣～

開催期間▶9月2日(日)～10月31日(水)まで



▲秋田銀判 (四匁六分)



▲寛永通宝 (加護山銭)



▲天保通宝 (加護山製)



▲秋田一分銀

## 回 貨幣と金属の歴史

■古代から、金・銀・銅は、貨幣として用いられ、素材そのものに価値があるとされてきました。■中世の西洋では、領主の特権をシニョリッジ(seigniorage)といい、鉱山採掘権および貨幣発行益などが認められてきました。■領主は、金・銀・銅の鉱山を開発し、貨幣を発行することで、富と権力を得ることができました。

## 回 秋田の鉱山開発

■日本でも、戦国時代には全国各地の領主が、こぞって鉱山を開発し、貨幣を発行しました。■これらは領国貨幣といわれ、秋田にも「切銀(きりぎん)」とよばれる貨幣が、院内銀山や阿仁鉱山などで生産されました。■江戸時代には、秋田藩によって阿仁鉱山の開発が進められ、銅の生産量が日本一となりました。

## 回 江戸幕府による貨幣の管理

■江戸時代になると、幕府によって貨幣の鑄造は厳しく管理されました。■秋田藩でも、阿仁鉱山の銅・銀は、銀を含む荒銅(粗銅)として、大坂の銅吹所(製錬所)へ出荷するだけになっていました。

## 回 秋田藩による貨幣の密造

■秋田藩では、極秘に製錬所の開発を進め、1775年には、阿仁鉱山の近くに加護山吹分処(製錬所)を建設し、純度の高い銅、銀が生産できるようになりました。■幕府の権力が衰えた幕末期には、各藩で貨幣の密造がおこなわれるようになりました。■秋田藩でも阿仁鉱山から生産される銅・銀を用いて、加護山吹分処で各種の貨幣が大量に密鑄されていました。

## 回 特別展のみどころ

■今回の特別展示では、阿仁鉱山と加護山吹分処で製造された貨幣を中心に展示し、秋田の貨幣の特徴について解説します。■また、貨幣の原料、製造法、貨幣の交換価値などについても解説します。